

72
157

石卷測候所編纂

管内氣象觀測法一斑



管内氣象觀測法一班ノ正誤表

頁	行	誤	正
三	五	●地面下或ハ深サ	○ル○
五	八	●球寒暖計	○ル○
七	三	●地面下或ハ深サ	○ル○
九	末ヨリ五	●對セル更正數	○ス○
一	一	●除ク	○ケ○
一	九	●要用ナリトシ	○ス○
一	三	●緊要ナルヲ以テ	○ケ○
一	九	●常ニ重直ナル	○ス○
一	三	●眞南北檢出法	○ケ○
一	六	●五度内許	○ス○
一	七	●十六方向	○ケ○
一	七	●北東	○ス○
一	七	●北東	○ス○
一	九	●零トシ	○ス○
二	二	●上中下ノ	○下ニ三ヲ加フ
二	三	●積亂雲 KN	○三字ヲ除ク
二	四	●積亂雲	○下ニニ用ヲ加フ
二	一	●日常座右	○左
二	三	●雷雨報告	○ノ下ニ用ヲ加フ
二	三	●所定ノ報告	○ノ下ニ用紙ノ二字ヲ加フ
二	二	●8,200	○200
三	三	●最低温度ト四日ニ觀測セル	○及前日ノモノトスヘキト改ム
三	一	●(字數時十字又ハ十三字)	○(字數十字又ハ十三字ト)改ム
三	一	●末尾ニ次ノ式ヲ加フ	

第二電報式 問合電報(字數十字)
 アメジカンイシマキ

管内氣象觀測法

一 觀測ニ就キテノ注意

氣象觀測ハ最モ注意シテ施スヘキモノニシテ特ニ其正確ナルト欲漏ナキヲ要ス。苟モ正確ナク欠クモノハ仮令如何ナル辛苦ニ堪ユ如何ナル大冊ノ表ヲナストモ殆ンド古紙ト同様何等ノ要ナモノナザルナリ。而シテ其觀測ニ與フル價值ノ輕重ハ其繼續年數ノ長短ニ關スルコト多大ナレバ觀測ノ中止又ハ欠測等ノ事ナク引キ續キ正確ナル觀測ヲナスコトニ注意セサルヘカラス。若シ不得止事故ノ爲メ中止又ハ欠測ヲナシタルトキハ決シテ自己ノ揣摩憶測ヲ以テ其欠ヲ補フヘカラス觀測ハ必ず毎次直チニ野帳ニ記入スヘシ、記憶ニ依頼スルガ如キハ誤謬ヲ生スルノ基ナリ

二 氣象觀測所ノ種類

現今本邦氣象觀測ノ組織ハ東京ニ中央氣象臺ヲ置キ、各府縣ニ一箇以上ノ測候所ヲ設置シテ氣象ノ統計、學理ノ研究及氣候ノ調査ニ從事セシメ更ニ各府縣樞要ノ地ニ管内氣象觀測所ヲ置キ管内氣候調査ノ資料ヲ蒐集ス、即チ其觀測回數及設備器械等左ノ如シ

明治
43.10.12
管内

中央氣象臺 一日二十四回定時觀測
一等測候所

備付器械 晴雨計、寒暖計、乾濕計、最高最低寒暖計、地溫計、地中寒暖計、
風力計、風信器、雨量計、蒸發計、日照計、地震計等

二等測候所 一日六回 午前二時、六時、十時、定時觀測
午後二時、六時、十時

備付器械 晴雨計、寒暖計、乾濕計、最高最低寒暖計、風力計、風信器、雨量
計、日照計、地震計等

管内氣象觀測所

備付器械 寒暖計、乾濕計、最高最低寒暖計、雨量計、蒸發計、風信器、晴雨計
等其他

第一章 空氣ノ溫度

●寒暖計及其裝置方

寒暖計ハ物体ノ溫度ヲ測ルニ供スル器械ニシテ其度目ハ水素瓦斯寒暖計ノ示度ニ更正シタル

モノナリ而シテ氣象觀測上ニ於テハ特ニ大氣及地中、水中等ノ溫度ヲ測ルニ用フルモノナレ
ハ所要ノ溫度ヲ正確ニ示スヘキ様夫々適當ノ排置ヲ爲ヌテ要ス

觀測所ニ使用スヘキ寒暖計ハ乾球寒暖計、濕球寒暖計、最高寒暖計、最低寒暖計及地中寒暖
計ノ五種トス而シテ乾濕球寒暖計ハ大氣ノ溫度並ニ大氣中ニ含有スル水蒸氣ノ量ヲ測ルノ器
械ニシテ最高最低寒暖計ハ大氣ノ最高及最低溫度ヲ自記シ地中寒暖計ハ地面下或ハ深サノ温
度ヲ示ス處ノ器械ナリ

寒暖計ハ總テ直ニ玻璃管ニ度ヲ畫シ且中央氣象臺ノ証狀アルモノニ非サレハ之ヲ使用スベカ
ラズ

寒暖計(地中寒暖計ヲ除ク以下同シ)ハステヴンソン形ノ百葉箱ニ入レ而シテ四方開豁ニシテ
大氣ノ流通宜シキ場所ヲ撰ビ且結露草ヲ植エタル平地ヨリ高サ一米内外ノ處ニ置クヘシ但積
雪ニ米以上ニ及フヘキノ虞アル場所ニ於テハ此限ニアラヌ
ステヴンソン形百葉箱ハ二重ノ板籠(板籠トハ西洋室ノ窓戸ニ用フルモノ、如ク板々相斜層
スルモノヲ云フ)ヲ以テ四方ヲ裝置シ其上面ハ木製ノ屋根ヲ以テ之ヲ覆ヒ其底ハ幅凡ソ五寸

ノ板ヲ凡一吋ツ、隔テ、並ヘ張リタルモノナリ此箱ノ中央ニ二個ノ横木ヲ架シ之ニ乾濕球ノ
兩寒暖計ヲ並ヘ懸ケ其管ヲシテ鉛直ナラシメ且其球ヲシテ横架ノ下二三寸ノ處ニ在ラシムハ
シ又此横木ニ二個ノ柱ヲ設ケ之ニ最高最低ノ兩寒暖計ヲ横ニ懸ケハシ
百葉箱ハ表裏共ニ白ク塗り(白「ペンキ」ヲ用フルヲ善シトス)且北向キノ戸ハ其開閉ヲ自在ナ
ラシムヘシ

●觀測

寒暖計ヲ觀測スルニハ先ツ百葉箱ノ北向キノ戸ヲ靜ニ開キ左ノ方法ニ遵ヒ敏捷ニ觀測スヘシ
但シ觀測ハ總テ敏捷ヲ尙フト雖モ誤測ノ過失ナキ様宜シク注意スヘシ又觀測ヲ終リタルトキ
ハ直ニ此戸ヲ閉ツヘシ

乾球寒暖計 此寒暖計ノ度ヲ檢スルニハ眼ヲ水銀柱ノ上端ト平準ニ置クヲ要ス否ヲサレハ
必ス多少ノ誤差ヲ生スルモノナリ寒暖計ノ畫線ハ通常一度或ハ五分ノ一度ヲ以テ一畫トナス
ト雖モ觀測ニ慣ル、トキハ一度ノ十分一迄ヲ觀測スルコト難カラス故ニ野帳ニハ必ス十分ノ
一迄ヲ記載シ而シテ其分數ナキトキハ小數ニ代フルニ必ス零ヲ以テスヘシ

濕球寒暖計

濕球寒暖計ハ尤モ粗薄ナル麻布ニテ其球ヲ包ミ之ヲ蒸溜水若シクハ雨水(己
ムヲ得サレハ通常ノ水ヲ用フルモ可ナリ)ニテ濕ホシ以テ觀測スルモノナリ而シテ其觀測法
ハ乾球寒暖計ト同一ニシテ只球ヲ潤ホスト否ルトノ別アルノミ

球ヲ濕ホスニ二方アリ甲ハ觀測時大凡十分前ニ於テ豫メ備ヘタル小杯ノ水ヲ麻布ニ注クニア
リ乙ハ麻布ヨリ綿絲ヲ垂レ其端ヲ小杯ノ水中ニ浸シ置キ其毛管作用ニヨリ絶ヘヌ球ヲ濕ホサ
シムルニ在リトス大氣靜穩ニシテ麻布ノ水、蒸發シ難シト認ムルトキハ扇ヲ以テ之ヲ煽動シ
テ蒸發ヲ催シ凡ソ十分時間ノ後觀測ヲナスヘシ

球寒暖計ノ示度ハ概子乾球寒暖計ノ示度ヨリ低キヲ常トス冬時空氣ノ溫度氷点以下ニ降リ
綿絲或ハ小杯ノ水凍結スルトキハ毛管ノ作用歇ミテ麻布充分ニ潤ハサルヘシ此ノ場合ニ於テ
ハ觀測ニ先ツコト二十分乃至三十分ニ水ヲ以テ麻布ヲ潤ホシ一様ニ薄氷ヲ結フヲ俟テ然ル後
觀測ヲ施スヘシ

最高寒暖計

普通ノ最高寒暖計ハ空氣ノ小泡ヲ以テ水銀條ヲ截リテ二分トナシタルモノナ
リ此器ニヨリ觀測スルニハ氣泡上ノ水銀ノ管頂ニ向ヒタル端ニ當リタル度ヲ檢シ以テ大氣ノ

最高温度ヲ知ルヘシ但シ此際管ト直角ノ方向ニ眼ヲ置キ觀測スルコト緊要ナリ又水銀ヲ長ヌ
ニハ球ヲ下ニシ寒暖計ヲ斜メニ保持スルヲ以テ足レリトス之ヲ復原ト云フ此他ノ觀測法ハ凡
テ乾球寒暖計ニ異ナル處ナシ

最低寒暖計 最低寒暖計ハ概ネ水銀製ニ非シテ酒精中ニ一ノ標針ヲ浮メタルモノニ係ル此
標針ハ温度上昇シテ酒精膨脹スルトキハ依然トシテ動カス温度下降シテ酒精收縮スルトキハ
標針ハ酒精ノ端ト共ニ動クモノナリ故ニ管頂ニ向ヒタル標針ノ端ニ符合スル度ヲ檢シ以テ大
氣ノ最低温度ヲ知ルヘシ而シテ觀測ヲ終ルヤ直チニ寒暖計ヲ架ヨリ卸シ球ヲ上ニシテ斜ニ保
持シ標針ノ管頂ニ向ヒタル端ヲシテ酒精ノ端ト密接セシメ置クヘシ之ヲ復原ト云フ此他ハ總
テ最高寒暖計ニ異ナル處ナシ

酒精寒暖計ニ於テハ其酒精蒸發シテ管頂ニ登リ還原シテ露狀ヲナシ下部ニ復セサルガ爲メニ
間々其示度低キニ過クルコトアリ故ニ時々其示度ヲ水銀寒暖計ノ示度ト比較シ以テ其全一ナ
ルヤ否ヲ檢定スルコト緊要ナリ斯ク酒精ノ還原シテ管頂ニ露狀ヲナシタルトキハ寒暖計ヲ架
ヨリ卸シ其球ヲ下ニシテ管ヲ直立セシメ然ル後之ヲ微敲シ或ハ之ヲ振り動カセバ管頂ノ酒精

自ラ降下シテ下ノ酒精ト連續スヘシ此ノ如キ手術ヲ施スモ管頂ノ酒精尙ホ降下セサルトキハ
別種ノ手術ヲ要スヘキニヨリ測候所ニ就キ修理スルヲ長トス

地中寒暖計 地中寒暖計ハ地面下或ハ深サノ地温ヲ測ルニ用フル器械ニシテ曲管式寒暖計
、木枠附寒暖計ノ二種アリ

(イ) 曲管式寒暖計 此種ノ寒暖計ハ普通寒暖計ノ硝子管ヲ延長シテ晝度面ノ下部ヲ曲折
セルモノニ係リ淺キ地中温ヲ計ルニ用フ。此寒暖計ヲ裝置スル際ニハ球ノ中央ヨリ所要ノ深
サヲ管ニ添フヲ測リ管ニ記印シ其印象部迄地中ニ挿入シ且ツ地表面ハ(隙隙)ナキ糠土及芝草
等ニテ蔽フコト緊要ナリ之ヲ觀測スルニハ眼ハ水銀系頭ト直角ニ置クヘシ、其他ハ總ヘテ普
通寒暖計ト異ナル處ナシ

(ロ) 木枠附寒暖計 此種ノ寒暖計ハ普通寒暖計ヲ厚キ木枠ニ裝シ球部ハ護管ヲ以テ蔽
ハレ比較的深キ地中温ヲ觀測スルニ用キラル之ヲ裝置スルニハ豫メ所要ノ深サヨリ稍々長キ
鐵管又ハ竹管ヲ觀測スヘキ地ニ挿入シ寒暖計ニ鎖ヲ附シ管中ニ垂下シ管頭ハ雨水外氣ノ浸入
ヲ防ク爲メ蓋ヲ附ス、此寒暖計ヲ觀測スルニハ普通寒暖計ト同様水銀系頭ト平準ニ眼ヲ置ク

ヲ要ス

水温計

水温計ニ數種アレモ普通ノモノハ汲取式及顛倒式トス

汲取式寒暖計ハ普通寒暖計ヲ小槽ヲ有スル銅板ニ附シタルモノニシテ重ニ表水ヲ測ルニ用
フ此種ノモノニアリテハ外氣ノ溫度ヲ感スルコト頗ル鋭敏ナレバ迅速ニ檢スルヲ要ス

顛倒式寒暖計ハ深海ノ水温ヲ測ルニ用フル器械ナリ、此寒暖計ハ球ト細管トノ間ニ特別ニ
狭小ニシタル上曲折シテ體積ノ大ナル所ヲ作り此部分ニ於テ水銀糸ヲ切斷セシムル目的ナリ
故ニ所要ノ深サ又ハ時刻ニ於テ寒暖計ヲ轉覆シ水銀糸ノ切レテ落下シ來リタル部分ヲ讀ミテ
其示度ヲ知ルナリ

此外海中ノ水温、比重、浮漂生物等ヲ知ル目的ヲ以テ作ラレタル採水筒アリ (略ス)

●示度ノ更正

凡ソ觀測シテ得タル寒暖計ノ示度ハ器械ノ証狀ニ示ス處ノ更正數ヲ以テ改正スヘシ而シテ其
更正數ハ概ネ五度毎ニ示サル、ガ故ニ左ノ如ク中間度數ノ更正數ハ比例法ニヨリ算出シ百分
數ハ五拾六入シテ施スヘシ又証狀ノ更正數ニ減號(一)ヲ付シタルモノハ之ヲ示度ヨリ減シ加

號(十)ヲ付シタルモノハ之ヲ示度ニ加フヘシ

例令器械ノ証狀中ニ示セル更正數左ノ如キ場合ニ於テ

ト示サルノ片ハ	更正數
-5.....	-0,20.....
-4.....	-0,20.....
-3.....	-0,20.....
-2.....	-0,20.....
-1.....	-0,20.....
0.....	-0,20.....
10.....	0,00.....
11.....	+0,04.....
12.....	+0,08.....
13.....	+0,12.....
14.....	+0,16.....
15.....	+0,20.....
16.....	+0,22.....
17.....	+0,24.....
18.....	+0,26.....
19.....	+0,28.....
20.....	+0,30.....

若シ示度二三、八ナレバ十四度ニ對セル更正數〇、ニヲ加ヘ一四、〇ト表中ニ記載シ又一七、
ニナレバ十七度ニ對セル更正數〇、ニヲ加ヘ一七、四ト記載スヘシ
若シ示度が氷点下ナルトキハ計算及誤謬ヲ避クル爲メ其數ニ百ヲ加ヘテ余數ヲ記スルヲ常ト
ス即チ(一)三度ニナルトキハ九六、八ト記スガ如シ

$$-32 + 100,0 = 96,8$$

第二章 水蒸氣

◎濕度

大氣中ニ飽和セル水蒸氣ノ量ハ大氣ノ溫度ニヨリ變スルモノナリ而シテ或ル溫度ニ於テ大氣ノ能ク飽和スヘキ水蒸氣ノ量ト現ニ其大氣中ニ存在セル水蒸氣ノ量トノ比率ヲ濕度ト名ク。但濕度ハ此比率ノ百分一ヲ以テ其單位トス即チ此比率ニ百ヲ乘スルニ等シ例ヘハ比率〇、七六ナルトキハ七六ト記シ又〇、八九七ナルトキハ八九、七ト記スガ如シ

◎水蒸氣ノ張力及濕度ノ推算

大氣中ニ現在スル水蒸氣ノ量即チ張力及濕度ハ乾濕球兩寒暖計ノ示度ト卷末ノ附表トヲ以テ之ヲ推算スルコトヲ得其方法左ノ如シ濕球寒暖計ノ示度ヲ附表ノ左方第一行ニ索メ乾球寒暖計ノ示度ト濕球寒暖計ノ示度トノ差ヲ表ノ上頭第一行ニ索ムレハ即チ之ノ兩行ノ交ハル處ニ於テ)ヲ得ヘシ但シ濕球寒暖計ノ示度〇度ニシテ其球面ノ水、氷結シタルトキハ〇トシテ之ヲ表中ニ索メ又水、氷結セザルトキハ+〇ニシテ索ムヘシ、濕球寒暖計ノ示度ニ十分位ノ

數アルトキハ水蒸氣ノ張力ニアリテハ中間ノ小表ニヨリ相當スル數ヲ索メテ整數以上ニ相當スル張力ニ加減シ、濕度ニアリテハ下段ノモノトノ差ヲ比例法ニヨリ相當數ヲ索メテ加減スヘシ

第三章 雨雪及蒸發

◎雨量計

雨量計ハ降雨ノ量ヲ測ル器械ニシテ漏斗、瀝水器瀝水瓶、及玻璃製ノ量水器ヨリ成ルモノナリ而シテ漏斗ノ直徑ハ二粉ナルヲ常トス

雨量計ハ四方開豁ニシテ樹木家屋等ノ障害物ヲ遠カリタル場所ヲ撰テ据附クヘシ其法先ツ地ニ穴ヲ穿チ其内ニ瀝水器及瀝水瓶ヲ容レ置キ漏斗ノ上縁ヲシテ水準ナラシメ且地面ヲ距ルコト八寸内外ノ高サニ在ラシメ而シテ後四周ニ土ヲ填充シ且地平ヨリ稍々高ミニナシ結縛草ヲ植エ附クヘシ、芝ハ余リ成長セシメヌシテ以テ雨滴ノ地面ニ落チタルモノノ飛跳シテ漏斗内ニ入ルヲ防クヘシ

降雨ノ有無ニ拘ハラヌ觀測時毎ニ必ス雨量計ノ觀測ヲナスヘシ其觀測ノ法タルヤ先漏斗ヲ取

リ除ク然ル後灌水及灌水器ノ雨水ヲ量水器内ニ注入シテ其量ヲ測ルベシ其水ノ度即高サヲ
檢スルニ方リテ器内ノ水ノ邊縁ニ相當セル畫線ヲ檢セス必ス全面ノ高サニ相當セル畫線ヲ檢
シ之ヲ野帳ニ記載スヘシ而シテ量水器ニ雨水ヲ移シタル後ハ直チニ器械ヲ元ノ如ク裝置スヘ
シ

冬時降雪ノ際雪ノ器中ニ堆積シタルトキハ之ヲ他器ニ移シ火上ニ鑄シ徐々ニ温メテ雪ヲ融解
セシメタル後其水量ヲ測リ野帳ニ記載スヘシ、但シ此場合ニ高温ニ昇ストキハ水ノ蒸發シテ
減量スル虞アレバ特ニ細心ノ注意ヲ要ス

積雪ノ深サヲ測ルルニハ豫メ四方開豁ニシテ風ノ爲メニ雪ヲ吹拂ヒ或ハ吹散ムル等ノ憂ナキ場
所ヲ撰ビ地面ヲ平坦ニ準ラシ爰ニ二尺乃至四尺ノ板ヲ水準ニシテ且ツ地面ト同シ高サニ敷キ
其四隅ニ杭ヲ樹テ以テ其位置ヲ辨知シ易カラシムヘシ而シテ降雪アリタルトキハ米尺(曲尺
ニテモ可ナリ)ヲ垂直ニ挿込ニ其端ヲシテ敷板ニ達セシメテ其深サヲ測ルヘシ(毎觀測時間
内ノ積雪ヲ測ル場合ニハ觀測終了後板上ノ雪ヲ拂ヒ置キ次ノ觀測時ニ上記ノ法ヲ繰リ返スヘ
シ但シ此場合ニハ附近ノ雪ノ崩壞又ハ吹キ込マザル様注意ヲ要ス)

數日或ハ冬季ヲ通ジテ積雪ヲ測ル場合ニハ曲尺又ハ米尺ノ度目ヲ畫シタル竿ヲ敷板ノ上或ハ
其側ラニ樹テ置キ以テ積雪ノ深サヲ測ルヘシ、而シテ雪ノ深サヲ野帳ニ記載スルニハ現時ノ
深サヲ記載スヘシ、若シ十分位ノ數ヲ欠キタル場合ニハ必ス〇ヲ填寫スヘシ

●蒸發計

蒸發計ハ水ノ空中ニ蒸發スル量ヲ測ル器械ニシテ通常直徑二十^{センチメートル}厘高サ四厘内外ノ圓筒及玻璃
製ノ量水器ヨリナル

蒸發計ハ雨量計ニ接近シテ且ツ殆ント等高ニ据付クルヲ要ス、其直徑ハ雨量計ト等シク爲ス
コトハ觀測上便利ナルヲ以テ等大ニナスヲ常トス

此器ニヨリ蒸發水量ヲ觀測スルニハ豫メ一定ノ水量ヲ灌ヘ置キ一定ノ時間ヲ經テ灌水ヲ量水
器ニ移シ觀測シ其減シタル水量ヲ蒸發セシモノトス其他ハ總ヘテ雨量計ノ場合ニ同シ。若シ
降雨雪アリタル場合ニハ其水量ヲ灌水量ニ加ヘ夫ヨリ觀測當時ノ水量ヲ減シ余數ヲ蒸發量ト
ス即チ

(例) 一某日午前十時ニ二十^{センチメートル}厘ノ水ヲ蒸發計ニ灌ヘ置キ后二十四時間ヲ經テ翌日午前十時ニ

觀測シタルニ十六耗三ナリシ場合ニハ蒸發量ハ三耗七ナリ

20,0—16,3—3,7

此二十四時間内ニ降雨雪アリテ蒸發計ト同時刻ニ觀測セシ水量一耗二ナリシ場合ニハ蒸發量ハ先ニ泄ヘタル水量二十耗ニ降水量一耗ニテ加ヘタルモノ即チ二十一耗ニヨリ現在水量十六耗ニテ減シタル余數四耗九ハ此二十四時内ニ蒸發セシ水量ニ當ル

(蒸水量 + 降水量) = 現在量 = 蒸發量

(20,0+1,2)—16,3=4,9

第四章 風

風ハ其方向及ヒ強弱ヲ觀測スルヲ以テ要用ナリトシ而シテ風ノ方向トハ風ノ吹來ル方位ヲ云フ例ヘハ北ヨリ南ニ向テ吹ク風ヲ北風ト云ヒ、東ヨリ西ニ向テ吹ク風ヲ東風ト云フカ如シ

●風 信 器

風ノ方向ヲ測ル器械ヲ風信器ト名ク此器械ハ喬木或ハ高樓等四方開豁シテ風ヲ遮キル物ナキ場所ニ置クヘシ〇而シテ風信器ハ廻轉自在ニシテ能ク風ノ方向ニ伴フコト緊要ナルヲ以テ成

ルヘク左ノ如キ設備ヲ施サル

風信器ノ構造 風信器ノ直チニ風ノ作用ヲ受クル部分即其翼ヲ作ルニハ長サ二尺乃至三尺幅六七寸ノ亜鉛板二枚ヲ併セ其開角ヲシテ大凡二十度内外ナラシメ此開角ノ等分線ノ方向ニ於テ二板ノ相接續メル終ヨリ一本ノ鐵桿ヲ出シ之ニ鉛丸ヲ附シ以テ全体ノ重心ヲシテ接續ノ處ニ在ラシメ此重心ニ當ル鐵桿ノ下部ニ竿ヲ付シ鐵製ノ圓管内ニ垂下セシム

重心部ノ鐵管ニハ鐵製ノ雨葎ヲ固着シ圓管ヲ覆ハシメ又管ト雨葎トノ接觸部ニハ溝ヲ穿テ小鉛丸數個ヲ格納シ風信器ノ回轉ヲ圓滑ナラシム

風信器ノ竿ハ直チニ鉛直ノ位置ヲ保チテ廻轉自在ナラシムルヲ要スルヲ以テ竿及鐵管ハ觀測室ノ屋根ヲ貫キ且鐵管ハ常ニ垂直ナル様屋根及梁ニ固定セシメ竿シテ常ニ鉛直ノ位置ヲ保持セシムルノ要ニ供ス、又竿ノ下端ニ翼角ノ等分線ト并行セル一指針ヲ附シ其下面ニ十六方位ニ分チタル盤ヲ備ヘ置キ以テ風ノ方向ヲ知ルニ便ス

風信器ノ翼ハ屋根ヨリ四五尺ノ所ニアラシムヘシ

眞南北檢出法方位盤ノ南北ハ眞南北ト合一スルヲ要ス、而シテ眞南北ヲ定ムルニハ須ク注

意スヘキ要件アリ即磁石ノ示ス處ノ南北ハ概テ眞南北ニ非ラスシテ之ト多少ノ角度ヲ爲スコト是ナリ此角度ヲ名付ケテ磁石ノ偏角ト云フ、故ニ其土地ニ於ケル偏角ヲ知ルトキハ磁石ヲ以テ眞南北ノ方向ヲ容易ニ定ムルヲ得ヘシト雖トモ此偏角ヲ知ラサルトキハ磁石ニ依頼シテ眞南北ヲ定ムルコト能ハサルナリ

磁石ノ偏角ハ時々刻々多少ノ變化ヲナスモノナレトモ一般ニ本邦ニ於テハ此偏角約西四度乃至五度ニアリト見做スヲ得ルヲ以テ磁石ノ示ス北ヨリ東ニ向フテ五度内許ノ處ニ在ル点ヲ探レハ大凡眞ノ北ヲ得ヘシト雖モ粗製ノ磁石ニテ此法ヲ施ストキハ往々誤謬ヲ生スルコトアレハ注意セサルヘカラス

觀測ニ就キテノ注意 風信器ヲ以テ風ノ方向ヲ觀測スルニ注意スヘキモノ二件アリ

(イ) 大風ノ時ニハ風信器ノ指針靜止セスシテ絶ヘス動搖スルヲ常トス斯ル場合ニ際シテハ其動搖ノ兩極ノ中央ニ當レル方位ヲ取り以テ當時ノ風向トナスヘシ

(ロ) 大氣靜穩ニシテ風力極メテ微弱ナルトキハ風信器ヲ動カスニ充分ナル力ヲ有セサルコト往々ニシテ如斯際ハ指針ノ示セル方向ハ現在ノ風ノ方向ニ非ズシテ其以前ニ此器ヲ動ス

ヘキ力ヲ有セシ風ノ方向ヲ示スモノナレハ之ヲ以テ現在ノ方向ト爲スヘカラス斯ノ如キ場合ニ於テハ草木ノ枝葉或ハ烟筒ヨリ噴出スル煙ノ如キ輕體ノ流動方向ニ注目シテ風向ヲ觀測スヘシ又夜間枝葉或ハ烟筒等ヲ充分ニ識別スルコト能ハサル場合ニ於テハ一指ヲ水ニテ濡シ手ヲ高ク空中ニ掀ルヘシ然ルトキハ風ノ吹キ來ル方向ニ於テハ其蒸發ヲ促シ特ニ寒冷ヲ覺ヘン即チ粗々風ノ方向ヲ知コトヲ得ヘシ

風信器ノ備ナキ場合ニハ幅五分乃至一寸長一尺乃至一尺五寸ノ輕キ布片ヲ釣竿等ノ如キ柔軟ナル竿ノ端ニ着ケ之ヲ屋上等四方開豁ナル場所ニ樹テ以テ風向ノ觀測ニ便スルモ亦一法ナリ、或ハ前述ノ如キ幅及長サヲ有スル細長ノ袋ヲ作り其口ニ細キ竹ノ輪ヲ縫ヒ付ケ更ニ口輪ニハ長一尺許ノ細糸ヲ結ビ其先端ハ長二間以上ノ竹桿ノ上端ニ直角ニ挿入シタル竹片ニ結束ス而シテ又此竹桿ノ下端ヨリ三尺内外ノ處ニ上端ノ竹片ト一直線ヲナシ且ツ反對ノ方向ニ一ノ竹片ヲ裝置スヘシ、次ニ此竹桿ヲ直立セシムル爲メ高サ三尺内外ノ木杭ヲ樹テ其上縁ニハ中央ニ穴ヲ有シ磁石ノ十六方向ヲ刻シタル圓板ヲ眞南北ニ合一セシムル様ナシテ固定スヘシ竹桿ハ此圓板ノ穴ヲ貫キテ樹立ス

此装置ニヨリ風向ヲ觀測サヌルニハ竹桿ノ下ニ立チ仰キテ上方竹片ト袋ト一直線ヲナス様竹桿ヲ回轉セシメ然ル後木杭上ノ圓板上ニアル竹片ノ指ス方位ヲ觀測スヘシ此方位ハ即チ風ノ方向ヲ示ス

風向ハ北、北北東、北東、東北東、東、東南東、南東、南南東、南、南南西、南西、西南西、西、西北西、北西、北北西、ノ十六方位又ハ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西、WNW、W、WNW、NW、NNW、N、NE、E、ESE、SE、SSE、S、SSW、SW、WSW、W、WNW、NW、NNW、N、NE、E、ESE、SE、SSE、S、SSW、SW、WSW、W、WNW

ノ八方位ニ分チテ觀測ス、前者ハ風信器ヲ有スル處ニ於テ觀測シ、後者ハ風信器ヲ有セザル所ニ於テ觀測スルヲ便トス、但シ大氣靜穩ニシテ烟直上シ樹葉動カサル場合ニハ横線(一)ヲ引キ以テ方向ヲ記スヘキ場所ヲ填充スヘシ

風階 通常ノ風ノカサ示スニハ風階ニヨル

風階 風力 一秒時間米 一時間哩 一坪面積、貫目 說 明
靜穩 ○ 一、五以下 三、四以下 ○、二以下 烟直上シ樹葉ヲ動カサレルモノ
軟風 一 三、五以下 七、八以下 一、三以下 人チシテ風ノ感覺ヲ起サシムルモノ

和風 二 六、〇以下 一三、四以下 三、八以下 樹葉ヲ動カスモノ
疾風 三 一〇、〇以下 二二、四以下 一〇、六以下 小枝ヲ動カスモノ
強風 四 一五、〇以下 三三、五以下 二二、八以下 勁枝ヲ動カスモノ
烈風 五 二九、〇以下 六四、九以下 八九、〇以下 大樹ノ幹ヲ動カスモノ
颶風 六 二九、〇以上 六四、九以上 八九、〇以上 樹ヲ拔キ家ヲ倒スモノ
風力四以上ヲ總稱シテ暴風ト云フ

第五章 天 氣

●雲

雲量 即チ雲ノ多少ハ滿天一点ノ雲ナキヲ零トス滿天雲ヲ以テ蔽ハルルトキヲ十トシ眼界ノ天ヲ十分シ其量ヲ零ヨリ十ニ至ル數ヲ以テ示ス

雲量三ニ滿タザルトキハ快晴トシ八分以上ヲ占ムルトキヲ曇天トシ兩者ノ中間ヲ晴天トス若シ雨雪等ノ現象アルトキハ其量ニ關ラヌ雨天トス

降水日トハ雨雪霰霧等ノ水量〇、一耗以上ニ達シタル日ヲ算シ雪、雹、霰、霜、暴風等ノ日數ハ其量ノ多少又ハ時間長短ニ關ハラズ現象ノアリタル日ヲ算ス、濃霧ハ四圍ノ物体ヲ識別

シ得サル混合若シクハ霧ノ爲メ天空ヲ全ク望見シ得サリシ日ヲ算ス

雲ハ其所在ノ高サニヨリ上中下ノ層ニ分チ、其形狀ニヨリ卷雲積雲層雲ノ三種ヲ主形トシ其變形七種ヲ併シ十種ニ區別シ觀測ス、左ニ雲級雲形及識別型式記號及浮泛ノ高距ヲ記ス

名稱 記號 識別型式

上層雲 (五千米内外)

卷雲 c 纖維ナル白色ノ雲ニシテ羽毛又ハ馬尾ノ如キ狀ヲ呈シ時ニ捲纏シ或ハ細網ノ如キ狀ヲ呈スルヲアリ
白色ニシテ帶狀ノ雲層ヲナシ往々滿天ヲ蔽ヒテ日光ヲ遮斷スルキハ暈(暈色ニシテ光彩ヲ帶ヒス)ヲ生ス(俗ニ笠ト云フ)

卷積雲 CK 小團雲ノ集合ヨリナリテ時々鯖魚ノ斑紋ノ如キ狀ヲ呈シ蒼天ニ白色ノ斑点ヲ散クモノ

積卷雲 KC 卷積雲ニ類似スレモ其團塊稍大ニシテ往々列ヲナシテ生ズ日光ヲ前面ヨリ受クルトキハ周縁ニ陰影ヲ生シ背面ヨリ受クルトキハ中央部帶黑色ヲ呈ス

中層雲 (三千米乃至七千米)

層積雲 SK 稍々濃密ニシテ灰色ヲ呈シ、滿天ヲ蔽フコト屢々ニシテ此際日月ノ周圍ニ光環(虹彩)ヲ帶ブル輪狀ノ光象ヲ生ス

層積雲 SC 暗黒巨大ノ雲塊ニシテ屢々波狀ヲ呈シテ滿天ヲ蔽フコトアリ能ク雨天ノ前後ニ現ハル、其層ノ薄キトキ、又ハ其間隙ヨリ蒼天ヲ望ミ日光ヲ漏ヌコトアリ

亂雲 N 一二雨雲ト稱シ濃密ナル黒雲ニシテ一定ノ形狀ヲ有セザレモ其緣邊亂裂シ多ク降雪ヲ發現ス

積亂雲 KN 濃厚ナル團雲ニシテ湧出ノ狀ヲ呈ス其上部ハ無數ノ凸面ヲ有シ下部ハ水平ナリ、其形狀ノ變化急激ニシテ、日光裏面ヨリ來レ

下層雲 (一千米乃至三千米)

積亂雲 内部暗黒ニシテ緣邊透明ルケ、前面ヨリ光線ヲ受クルキハ前者ト反ヌ、稍々高キ空際ニ懸リ底面ハ一千四百米ニ達シ頭部ハ一千八百米ニ及ブ

層雲 S 濃厚ナル團雲ニシテ其形或ハ山ノ如ク或ハ塔ノ如ク其上部高キ空際ニ昇ルトキハ幕狀又ハ帶狀ニ變ジ下部ハ亂雲ニ似テ灰色ノ裂雲ヲ示ス、此雲ノ特性ハ電、雷雨、雹ヲ起コスモ此等諸現象ノ繼續時間極メテ短カキヲ常トス、此雲ノ底面ハ一千四百米ニ止マレモ頭部著シク昇騰シ三千乃至五千米ニ達スルヲアリ

層雲 一二高霧ト稱シ空際ニ現ハル、霧ニシテ灰色不定形ノ低キ雲ナリ、此雲ノ地面近クニ生スルトキハ吾人之ヲ稱シテ霧ト云フ、層雲ハ普通一千米以下ノ空際ニ生ス

若シ數種ノ雲同時ニ顯ハルルトキハ最モ多量ノ雲ヲ第一ニ記シ以下第三位マテ記載スレバ足ル尤モ此場合ニ雲量ハ各種雲別ニ觀測セズシテ單ニ合量ヲ記スヘシ

●天氣及記事ノ記號

雨雪霰其他各種ノ氣象現象ヲ記載スルニ左ノ記號ヲ用フルハ便益尠ナカラス

種類	天氣	記號	種類	記事	記號
快晴	晴	○	雨	雨	●
晴	曇	○	雪	雪	⊙
曇	雨	○	雷雨	雷雨	⊙
雨	雪	○	霰	霰	⊙
雷雨	霧	○	雪	電雷	⊙
雪	霰	○	電雷	電雷	⊙
電雷	霧	○	電光	電光	⊙
霧	霜	○	霜	霜	⊙
霜	露	○	露	露	⊙
露	樹水	○	樹水	樹水	⊙
樹水	凝霜	○	凝霜	凝霜	⊙
凝霜		○			⊙

ラヌ記入スヘシ一時間以上其繼續シタルトキハ其時間ヲモ記スヘシ、其他電雷ノ始終時刻
方向強度、動植物ノ發生播種開花收穫等ヲ記載スヘシ

但シ電雷ニアリテハ雷雨報告紙ニ記入シ直チニ報告シ、動植物ニアリテハ所定ノ報告ニ
遲滞ナク轉記シ置キ規定期日ニ取り纏メ報告スヘシ

一 雨雪具及積雪ノ深サハ日本數字ヲ以テ正確ニ記入スヘシ、各位ノ數ヲ欠クトキハ必ス〇ヲ
填寫スヘシ

一 數字ハ凡ヘテ位取りヲ誤ラサル様留意スヘシ、寒暖計數ニアリテハ度ヲ以テ「コンマ」ヲ附
シ、時刻ハ時ヲ以テ「コンマ」ヲ附スヘシ

其各位ノ數ヲ欠クトキハ〇ヲ填寫スヘシ

例 十二度〇ハ一二、〇ト記シ 〇度八ハ〇、八ト記ス

午前八時二十分 八、20、 ト記シ 午後〇時七分ハ〇、07ト記スカ如シ

一 溫度ノ氷点下ニ降りタルモノニハ必ス(一)符ヲ冠スヘシ

一 器差ハ誤謬ナキ様注意シテ加減スヘシ

一 濕度及水蒸氣張力ノ計算ヲナスニ當リ兩球示度ノ差ハ誤算ナキヤヲ檢シタル後兩球示度ニ
ヨリ索ムルニトシテ檢ムルハカク

一 野線ハ記入済ノ分ハ必ス翌月二日迄ニ測候所ニ發送スヘシ

第七章 管内氣象諸報告

一 地震報告

二 雷雨報告

三 結霜報告

四 降雪報告

五 動植物報告

六 暴風警戒中天氣實況調 (暴風警戒信號燈ニ限ル)

七 海水觀測報告 (海水觀測所ニ限ル)

八 大雨電報

一 地震報告

地震報告ハ其震動ノ感覺大小ニ拘ハラズ必ス左ノ要項ヲ觀測シ報告スヘシ

一地名 地震動ヲ感知シタル地名ヲ記スヘシ

一震動ノ年月日時 地震動初發時刻ニシテ可成正確ニ記スヘシ

一震動時間 震動ノ始ヨリ震動ノ終マテノ繼續時間ニシテ時分秒ヲ記スヘシ

一震動ノ方向 震動ノ來リタル方向ニシテ例ヘハ北ヨリト知リタル時ハ北トシ南ノ時ハ南ト

シテ八方位ニ分記スヘシ

一震動ノ強弱 地震ノ強サハ微、弱、強、烈ノ四種ニ區別ス微ハ僅カニ地震アルヲ覺エシモ

ノ、弱ハ震動ヲ覺ユルモ戶外ニ避クルニ足ラサルモノ、強ハ往々物品ノ倒伏、液体ノ溢出

等アリ人々戶外ニ走避クル者、烈ハ屋宇ヲ毀損若クハ倒伏シ或ハ地盤ノ變化等慘憺タル災

厄ヲ致スモノノ如シ

一震動ノ性質 水平、上下動及聲響(地鳴)ノ有無ヲ記スルモノニシテ殊ニ地鳴ノ觀測ハ地震

調査上甚タ緊要ナル事項ニ屬スルヲ以テ左ノ各項ニ準シ記入報告スヘシ

(イ) 地鳴ノ種類 ハ成ヘク普通ノ音響ニ比較シテ注解ヲ施シ記スルヲ善シトス例ヘハ(

荷車又ハ汽車ノ通過スルガ如キ音)(風聲ノ如キ音)(雷鳴ノ如キ音)(砲聲ノ如キ音)

(重キ物体ガ墜落シタルガ如キ音)(波浪ノ如キ音)(爆發ノ如キ音)等ト記スルガ如

シ若、シ其繼續中種類ノ變化アレバ之ヲ詳記スルヲ要ス、例ヘバ最初砲聲ノ如ク聞

ヘシガ後チ風聲ノ如クナレリトカ或ハ最初何秒間ハ遠ク橋上チ荷車ガ通過スルガ如

キ音ヲ聞キシガ次第ニ雷鳴ノ如キ音トナリ何秒間ヲ經テ急ニ消滅セリトカ記スルガ

シ如

(ロ) 地鳴ノ時刻 地鳴ガ地震ニ隨伴シタルモノナルトキハ發震前或ハ發震後何秒時ニ起

リ何秒時ニ止ムトカ云フガ如ク地震ノ時刻ニ比較シテ記スルヲ善シトス、地鳴ガ發

震ト全ク同時ニ起リタルモノ、外ハ例ヘ其時刻ノ差僅少ナルモノト雖モ發震ノ前後

孰レナリシカチ區別スルヲ要ス、若シ單獨ニ地鳴ノミヲ聞キタル時ハ其時刻ヲ時計

ニ就テ測リ發震時刻ノ欄ニ記入シ地鳴報告トシテ發送スヘシ

(ハ) 繼續時間 地鳴ノ繼續時間ハ概ネ短キモノナレバ時計ニ就テ精測スルコトヲ得ザル

場合アリ斯ル際ニハ普通人ノ歩數ヲ數ブルカ或ハ一ツニツ等ト數チ唱フルコトニ依

リテ凡ソノ時間ヲ知ルヲ得ベシ尙ホ前記ノ測定ヲモ洩シタルトキハ單ニ長カリシト
カ短カノリシトカ記シテ其長短ヲモテモ明カニスベシ

(三) 地鳴ノ強弱 ハ微、弱、強ノ三種ニ別ルベシ、微トハ注意セル一部ノ人ニノミ纔ニ
聞ハタルモノ弱トハ一般人ニ聞ハタルモノ強トハ戸障子ヲ動シ人々恐怖スルニ至リ
タルモノトス、若シ強サニ變化マレバ之ヲ詳記スベシ、例ヘバ最初ハ微ナリシガ中
頃強トナリ終リニ又微トナリ止ムトカ、或ハ最初何秒間ハ微夫レヨリ何秒間ハ強ニ
シテ戸障子鳴リシガ急ニ消滅シタリト記スルガ如シ

(ホ) 地鳴ノ方向 全一地方ニ於テモ觀測者ノ位置及土地ノ狀勢ニ據リテ大ニ異ナルモノ
ナレバ特ニ注意ヲ要ス其方向ハ八方位ニ別チテ記載スルノ外更ニ地下ニ聞ハタルヤ
否ヤヲ區別スルヲ必要トス、例ヘバ遠ク北方ニ聞ヘタリトカ、或ハ南方ノ地下ニ聞
ヘタリトカ、或ハ近キ直下ニ聞ヘタリトカ記スルガ如シ

(ハ) 雜報 ハ前項ニ洩レタルモノヲ記入スベシ

二 雷雨報告

雷雨報告ハ雷鳴ヲ聞キタルトキハ降雨、降雹又ハ電光ノ有無ニ拘ハラズ必ズ左ノ要項ヲ觀測
シ報告スベシ

- 一 雷鳴ヲ聞キタル地名 雷鳴ヲ聞キタル地名ヲ記スベシ
- 一 雷ノ鳴リ始メシ時刻及其方向 雷鳴ヲ始メテ聞キタル時刻ト同時ニ於ケル方向ヲ記スルモ
ノニシテ遠キモノニアリテハ雷雲(積雲又ハ積亂雲)ノ位置ニ注意シテ觀測スベシ
- 一 最後ノ雷鳴時刻及其方向 終リニ聞キタル時刻ト同刻ニ於ケル方向ヲ記スルモノニシテ雷
雲ノ位置及其經過ニ注意シテ觀測スベシ
- 一 雷ノ經過セシ方向 ハ例ヘバ最初何時分ニ南方ニ當リ聞ヘシガ中頃南東方ニ聞キ後チ東
方ニ聞キタリトセバ南—南東—東トカ或ハ西—北西—北トカ記スルガ如シ
- 一 雷ノ強弱 ハ微、弱、強ノ三種ニ區別ス微ハ雷鳴微カナルモノ、弱ハ雷鳴明カナルモノノ
恐怖心ヲ惹キ起ス迄ニ至ラザルモノ、強ハ殷々聲スルモノ或ハ耳ヲ聾スルモノニシテ多ク
ハ落雷ノ際聞ク如キ程度ノ強聲ナリ
- 一 雨ノ降り始メシ時刻 ハ雷鳴ノ前後ニ拘ハラズ最近ニ於テ降り始マリタル時刻ヲ記スベシ

- 一雨ノ強弱 雨滴大ニシテ土砂ヲ流失スル程度ノモノヲ強トシ其以下ハ弱トス
- 一雨ノ降り續キシ時間及其雨量 ハ可成雷鳴ニ伴ヒテ降雨セシ時間ヲ記スルモノニシテ雨量トハ其ノ時間内ニ於ケル合量ナリ
- 一雹ノ降り始メシ時刻及雹ノ大小 ハ雹ノ降り始マリシ時刻ニシテ大小トハ普通ノ物品ニ比較シテ記スルヲ善シトス例ヘバ小豆粒位トカ、五厘銅貨位トカ記スヘシ尙ホ形狀大キサヲ轉寫シ得ル場合ニハ出來ベキ丈精細ニ雜記欄ニ轉寫スヘシ
- 一雜記 ハ前項ニ洩レタルモノニシテ落雷及降雹アリタル時ハ其場所、時刻及被害等景況ノ詳細ヲ記スヘシ

三 結霜報告

- 結霜報告ハ多少ニ拘ハラヌ初メテ觀測セル時及晚霜季節ニ入りテハ觀測セル毎ニ報告スルモノナリ
- 一地名 結霜ヲ觀測セル地名ヲ記スベシ
- 一月日 ハ結霜ヲ觀測セル月日ヲ記スベシ

- 一霜ノ多少 地面、草上乃至家上等結霜ノ爲メ白色ヲ呈シタルヲ多トシ薄キヲ少トス
- 一氣温 ハ結霜ヲ觀測シタル時ニ於ケル最低温度及其前日ノ最高温度トヲ記入スヘシ例ヘバ五日ニアリトセバ同日午前ニ觀測セン最低温度ト四日ニ觀測セル最高温度ヲ記スルガ如シ
- 一前日來ノ天氣模様 ハ結霜ヲ觀測セルマデノ天氣模様ニシテ例ヘバ昨日午前中ハ北ノ風強ク曇天ナリシガ午後北西風ニ變リ概子晴天ナリシモ夜ニ入りテ快晴トナリ本朝ニ至ルガ如シ
- 一霜害情況 例ヘバ降霜アリタルニ當地方ニハ別狀ナカリシモ某町村ニハ桑其他農作物ニ多少ノ被害アル模様ナリシトカ其外前項ニ洩レタルモノヲ記スベシ

四 降雪報告

- 降雪報告ハ多少ニ拘ラス初メテ觀測セル時及三月以降觀測セル毎ニ報告スルモノナリ但シ三月以降ニアリテハ一日中斷續ノ場合ハ最初ノモノヲ以テス、日ヲ改リタルトキハ更ニ報告ヲ要ス
- 一地名 降雪ヲ觀測セル地名ヲ記スベシ

一月日ハ降雪ヲ觀測セル月日ニシテ降り初メタル時刻ハ可成正確ニ記スベシ
 一雪ノ多少 空際殆ント間隙ナキ如ク降りシキルカ又ハ各地方ニ於テ可成多量ナリト認メラ
 ル、程度ノモノヲ多トシ然ラザルヲ少ト記載スベシ
 一氣温 ハ降雪當時ニ於ケル温度ト最高低温度及其ノ前日ノ最高低温度等ヲ記スベシ
 一風向 ハ八方位分割ニヨリ降雪當時ニ於ケル風ノ方向ヲ記スベシ
 一雜記 ハ前項ニ洩レタルモノヲ記スベシ

五 動植物報告

動植物報告ハ年々畧ボ同一ノ場所又ハ同一ノ地方ニ於ケル動植物界ノ變遷ヲ記スルモノニシ
 テ常ニ其現象ヲ觀測シ置キ曆年末ニ之ヲ取り纏メ報告スヘシ而シテ觀測スベキ動植物ノ種類
 ハ大体報告用紙ニ掲記シアルモ各地普通ニアルモノ又ハ其地方ニ特有スルモノニ付年々其種
 類ヲ換ヘズ左ノ時期ノ月日ヲ記スヘシ但シ動物報告ニ限リ其月日ヲ記シ難キトキハ上中下旬
 ト記スルモ妨ケナシ

動物ニ於テハ來、啓、發生、發聲、蟄、去期ニシテ植物ニ於テハ播種、發芽、移植、開

花、滿開、結實期及收穫高等ニシテ其外洩レタル事項ハ記事中心ニ記スベシ

六 暴風警戒中天氣實況調

暴風警戒中天氣實況調 ハ信號標ニ於テ警報ヲ受ケタル時ヨリ天氣模様ニ注意シテ其現象ヲ
 詳細ニ記スヘシ而シテ解報ヲ受ケタル時ハ遲滯ナク報告スヘシ

七 海水觀測報告

海水觀測報告 ハ水面、水底温度ノ外比重、潮汐、干満及海水ノ色合等ヲ觀測スルモノニシ
 テ其外記事中心ニハ魚類ノ集散模様及捕獲シタル種名、數量及海水膨脹ノ起リシ時刻等ニモ注
 意シ報告スベシ

八 大雨電報

大雨電報 ハ大雨ヲ測リタル場合ニハ雨量電報發信手續ニヨリ遲滯ナク測候所ニ電報スベシ
 (雨量電報發信手續參照)

第一條 氣象觀測主任ハ大雨ノ場合ニハ緩急ヲ見計ヘ一時間乃至三十分毎ニ臨時觀測ヲ施
 行スル

東	ハ	ル	ツ	西	ト	ヨ	ム
南東	ニ	チ	ネ	北西	チ	タ	ウ

第二符號 (記事)

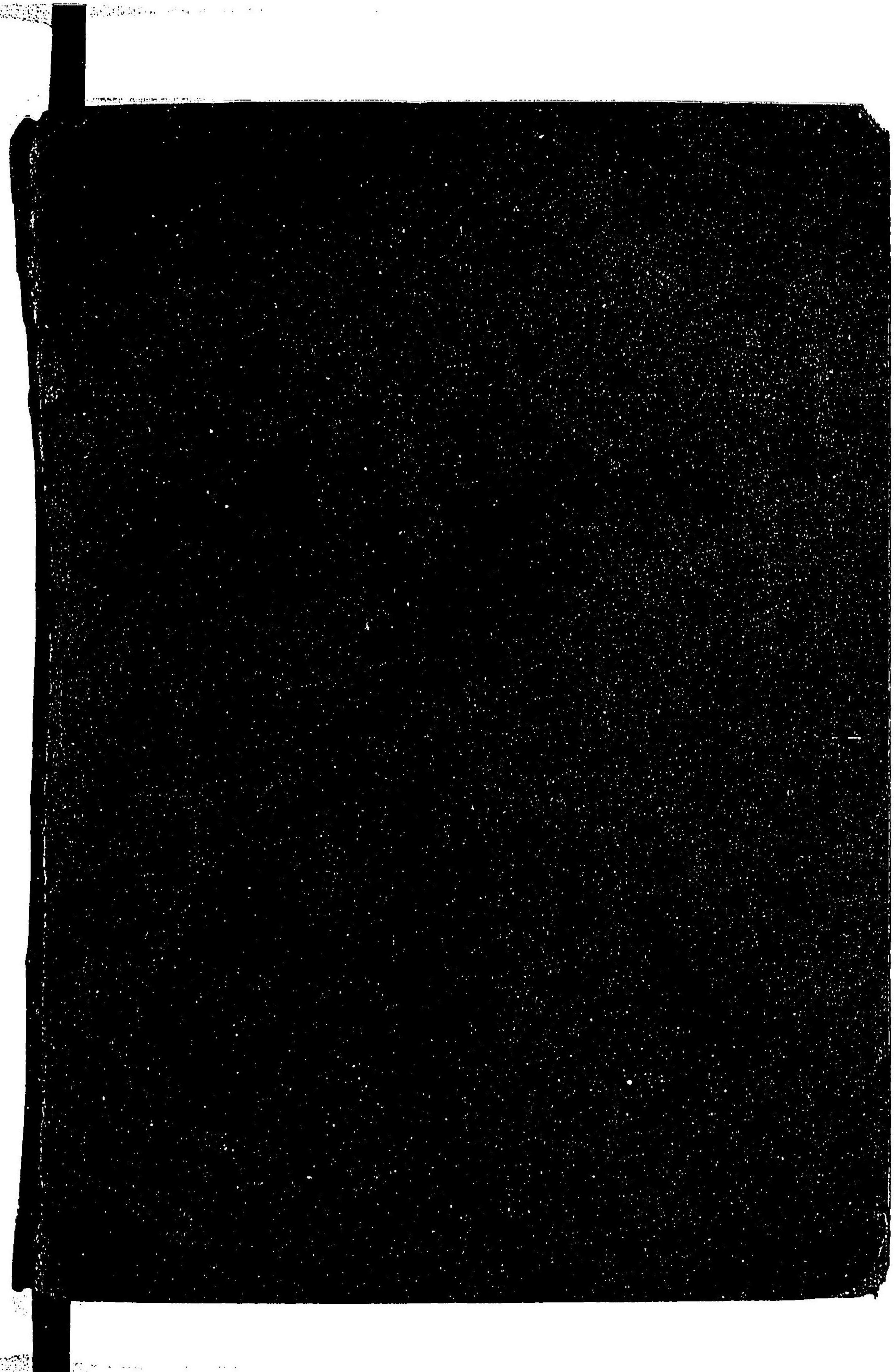
符號	解	符號	解
一	雨尙降ル模様アリ	六	河水増シ始メタリ
二	雨霽レタリ	七	河水益々増加ス
三	雨霽レタルモ尙模様悪シ	八	河水減シ始メタリ
四	小降リトナリタリ	九	未ダ減水ノ模様ナシ
五	引續キ大雨		

第三符號 (觀測所名)

符號	(觀測所名)	符號	(觀測所名)
シ	白石觀測所	ワ	若柳觀測所

ワ	タ	亘理觀測所	キ	セ	氣仙沼觀測所
ナ	カ	長町觀測所	ヌ	マ	沼倉觀測所
コ	コ	小牛田觀測所	オ	ノ	西小野田觀測所
ナ	ル	鳴子觀測所			

264
374



特 72

157

301699-001-6

特72-157

管内気象観測法一班

石巻測候所／編

CAN-0001

264
374